

全国保健所長会研修会
「これからの保健所の形と機能」

西日本豪雨災害とDHEAT活動 ～ロジスティクス担当の役割について

平成31年1月29日

長崎県 県央保健所次長 松本 恵理子

ロジスティクス担当の役割

1. 派遣打診から派遣までの対応
2. DHEAT人材育成
 - ①長崎県全体の取り組み
 - ②教育保健所の役割
 - ③県央保健所の取り組み
 - ④現場での成果と課題
3. DHEAT活動におけるロジスティクス担当の役割

職歴 長崎県入庁 1979年4月 一般(秘書)事務(中級)

年月	勤務箇所など	何をやってきたか
1979. 4~1985. 3	部長秘書(3部)	1982年7月長崎大水害の際、総務部長室に現地リエゾン職員活動の情報収集部門を設置、現場からの情報提供や処理状況のカード整理などに従事。
1985. 4~1990. 3	会計課	物品の契約事務に従事。平成へ元号が変わり、ゴム印多量発注、システム変更
1990. 4~1993. 3	漁政課	1991年6月雲仙普賢岳大火砕流、全庁的な災害対応に従事するとともに、漁業分野の火山灰被害に対する制度資金創設
1993. 4~1996. 3	対馬福祉事務所	初めての離島勤務、生活保護CW、神戸震災時は産後休暇中
1996. 4~1999. 3	田平土木事務所	経理事務。災害復旧の査定、会計検査
1999. 4~2005. 3	県立大学	新大学の教務部門の基礎づくり
2005. 4~2008. 3	水産振興課	ブランド魚、輸出、台風で魚市場被害復旧
2008. 4~2013. 3	こども家庭課	ひとり親・DV・児童虐待対策、母子保健、東日本震災では、心理士派遣等の調整
2013. 4~2015. 3	県立大学	学部・学科再編、COCプログラム
2015. 4~現在	県央保健所	保健所長会、教育保健所、地域医療構想

派遣打診から派遣者決定まで

○7月9日 国→都道府県 DHEAT派遣打診

第1班 派遣日 7月12日

チーム構成: 医師、薬剤師、保健師、栄養士、ロジ



○本庁福祉保健課でリーダーとなる保健所長(医師)3名と研修・訓練受講者の中から候補者名簿を作成し、所属へ打診。

微調整を行い第1班は7月9日中に派遣者決定。

【迅速に対応できた理由】

○登録者制で候補者の洗い出しが容易であった

○薬剤師、栄養士が候補者にいたこと

○リーダーの災害対応への意識の高さ

第1班の派遣まで

本庁福祉保健課

- ・国・岡山県とのやり取り
- ・交通手段の手配
- ・宿泊の手配
- ・貸し出しPCの手配
- ・報道機関窓口
- ・出発式等の調整
- ・被災地の資料収集
- ・報告様式等の調整

県央保健所【ロジ担当】

- ・資金前渡金の緊急支払依頼
- ・県央振興局への報告
- ・被災地の情報収集
EMIS情報など
- ・報道機関への現場対応
- ・持参物品の準備
- ・貸し出しPCの設定
- ・本庁手配分の連絡調整

ビブスも
準備！

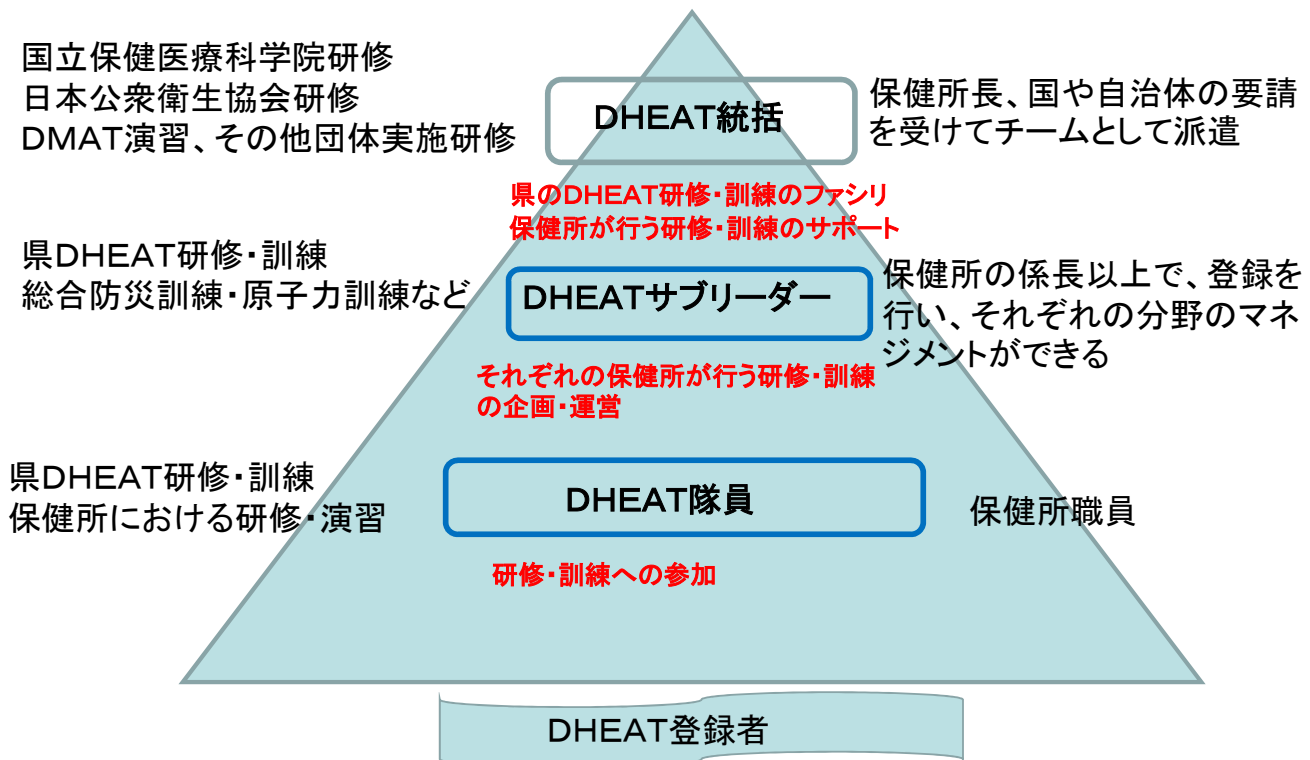
○班員個々人としては、職場と家族の理解と協力があつたことが重要



長崎県におけるDHEAT人材育成

年 度	取り組み内容	研修・訓練など
平成 26 年度	健康危機管理マニュアルの統一 保健所における災害時健康危機管理・公衆衛生活動マニュアル作成（3月）	合同訓練実施
平成 27 年度	長崎県災害時健康危機管理支援チーム設置 登録者数 42名	図上訓練実施
平成 28 年度	国庫補助金活用して人材育成の取り組みを推進 DHEAT登録者数 55名 DHEATビブス作成 目標数値の明確化 ○長崎県国土強靱化計画（H27～31） 訓練実施による体制の強化 DHEATによる訓練の実施保健所数 ○保健所業務推進計画（H29～H33） 各保健所職員のDHEAT登録者数の割合 50% 訓練指導者によるDHEAT訓練を行う保健所 H31までに100% 管内関係機関と連携した訓練を行う保健所 H33までに100%	九プロ研修会受講 災害コーディネーター研修受講 DMAT訓練と並行した訓練実施
平成 29 年度	DHEAT指導者（エキスパート）の育成 各保健所の係長以上の登録促進 訓練の質の向上	九プロ研修会受講 災害コーディネーター研修受講 指導者を保健所へ派遣し訓練実施
平成 30 年度	DHEAT指導者とファシリテーターの育成 各保健所で同一の内容で訓練を実施 管内市町と連携し訓練を実施	ファシリ研修参加 九プロ研修会受講 ファシリ研修実施 指導者、ファシリを派遣し全保健所で訓練実施

人材育成のイメージ



DHEAT研修・訓練の概要(28~30)

年度	実施日	名称	講師。内容等	教育保健所の役割
H28	H28. 6. 30	第1回 DHEAT 研修 (2時間)	1) 長崎県の災害対策 土木部次長 2) DHEAT入門 長谷川所長	研修会運営、テレビ会議 発信、事後評価
	H28. 11. 5 ~6	第1回 DHEAT 訓練 (2日間)	DMAT九プロ研修と併せて実施 演習1 情報収集管理について 松本 演習2 避難所評価について 藤田所長 演習3 EMISの入力・活用 藤田所長 演習4 情報伝達について 長谷川所長 ○保健所活動拠点本部(統括調整班)の支援訓練 ~実践参加と観察参加に分かれて実施~	研修会企画運営、研修シナ リオ検討(災害医療コーデ ィネーター研修等参考) 事後評価、次年度計画検討 に参画
	H29. 2. 20 ~21	第2回 DHEAT 訓練 (2日間)	第1回と同じ内容で実施	
H29	H29. 6. 15	第1回 DHEAT 研修 (2時間)	1) 長崎県の災害対策 危機管理課参事 2) DHEAT入門 藤田所長 3) 長崎県のDHEATについて 福祉保健課課長補佐	研修会運営、テレビ会議配 信、事後評価
	H29. 6. 29	第2回 DHEAT 研修	(1回目のビデオ配信)	
	H29. 12. 8	第1回 DHEAT 訓練	演習1 災害時の保健所危機管理体制の構築	4ヶ所での開催の研修資 料・研修資料の調整、ファ シリテーター支援、評価
	H29. 12. 22	第2回 DHEAT 訓練	演習2 HUGを用いた避難所運営・対応	
	H30. 1. 10	第3回 DHEAT 訓練	演習3 地区アセスメントと派遣調整支援	
H30. 2. 16	第4回 DHEAT 訓練	コントローラーは所長、九プロ受講者		
H30	H30. 6. 14	第1回 DHEAT 研修 (2時間)	1) 長崎県の防災対策 危機管理課参事 2) DHEAT入門 藤田所長 3) 行政の権限と責務 福祉保健課課長補佐	研修会運営、テレビ会議配 信、事後評価
	H30. 11. 1 ~2	第2回 DEHAT 研修 ファシリテータ ー研修	(1回目のビデオ配信) 演習1 災害時の保健所危機管理体制の構築 演習2 地域災害医療対策会議訓練 演習3 HUGを用いた避難所運営・対応 演習4 避難所運営会議訓練 コントローラーは所長、一部松本担当	研修会企画運営、シナリオ 作成、事後評価

教育保健所の役割

○平成26年度から県央保健所企画調整課に、新たに地域保健従事者の人材育成(Off-jt)を行うために、保健師2名、栄養士1名を配置。(教育・研修部門)＝「教育保健所」

○県及び市町の保健師・栄養士を主な対象として、集合研修・テレビ会議システムでの講義の配信・市町の人材育成への支援を行っている。

○人材育成にかかるプログラムの開発やマニュアル作成にも関わっている。

○DHEAT人材育成については、平成28年度より「特別研修」として位置付け、本庁福祉保健課と連携し、主に演習や訓練について技術支援。スタッフには、九ブロの基礎研修等を受講してもらい、ファシリテーターとして活躍できるよう育成。⇒今回の派遣者:教育担当経験スタッフ3名

ファシリ養成を教育保健所が実施

平成30年度DHEAT訓練ファシリテーター研修スケジュール

11月1日(木)

時間	内容
11:05～ 11:20	オリエンテーション
11:20～ 12:30	プログラム1 模擬演習の見学
12:30～ 13:30	(昼休み)
13:30～ 16:40	プログラム2 課題演習
16:40～ 17:00	振り返り 質疑応答

11月2日(金)

時間	内容
10:00～ 10:10	オリエンテーション
10:10～ 12:30	プログラム3 課題演習
12:30～ 13:30	(昼休み)
13:30～ 14:00	プログラム3 避難所運営会議
14:00～ 14:30	振り返り 質疑応答

DHEAT人材育成の課題

○登録制

数値目標はあるが、職員個人からの手上げ式には限界がある。

○人事異動

本庁の登録者は少ない。3年間研修・訓練の機会がないと成長がストップ

○研修・訓練の維持と向上

各保健所で同じ質の研修・訓練を行うには、統一したシナリオと、それぞれの保健所で運営できる人材を育成続ける必要あり。



国・国立保健医療科学院・日本公衆衛生協会研修、DMAT演習・災害コーディネーター研修受講によるブラッシュアップが必要。(離島が多い本県では予算(旅費)の確保)

◎派遣先で自律して活動できる人材の育成【支援】

◎DHEATを受け入れができる人材の育成【受援】

県央保健所の取り組み(H30)

保健所では1年中を通して、健康危機管理の訓練等を行っている。平成30年度の企画調整課長と健康危機管理担当者の職務目標に、「計画的な健康危機管理訓練の実施とマニュアルの整備」をかかげ実施中。⇒意図的、計画的、継続的な人材育成が必要。

実施時期	内 容	備 考
5月20日	初動体制の確立、リエゾンの派遣、DHEATの受け入れ、避難所支援、医療的ケアが必要な避難者への対応	県総合防災訓練の際にDMATと並行実施
6月	DHEAT講義	福祉保健課実施
6~8月	EMIS入力訓練	職員全員
9~2月	諫早市と合同訓練(2回)	諫早市
10月	鳥インフルエンザ訓練	家畜保健所と連携
12月	DHEAT訓練	所内
12月	新型インフルエンザ搬送訓練	消防・病院と連携
2月	原子力防災訓練	動員
2~3月	県央保健所版マニュアル案作成	所内へ周知

現場での成果と課題

○派遣職員は全員DHEAT訓練受講者で、本部機能の基本は習得できており、医療調整本部にバラバラに配置されたり、ニーズによって業務が変わったりしたが、対応できていた。
⇒多職種を対象とした人材育成の成果、繰り返し実施の成果

○一方で、保健師については、避難所ニーズの情報集約と分析についてリーダーシップが求められた。
⇒統括保健師等を対象とした避難所評価をテーマにした研修（保健所設置市、市町も入れて）

○医療支援チーム派遣調整のマンパワーとしてロジが充てられた。派遣調整の考え方は訓練で習得していたが、具体的な作業手順については、訓練を受けていなかった。
⇒医療チームの現場でのオペレーションについて、DMATとの合同訓練等で概要を押さえておく必要がある。

DHEATの合い言葉

CSCA-HHHH

組織体制 (CSCA)

- Command & Control
- Safety
- Communication
- Assessment

業務内容 (HHHH)

- Help
保健医療行政によるマネジメントの補佐的支援
- Hub for Cooperation & Coordination
多様な官民資源の“連携・協力”のハブ機能
- Health care system
急性期～亜急性期～復旧期までの切れ目のない医療提供体制の構築
- Health & Hygiene
避難所等における保健予防活動と生活環境衛生の確保による二次健康被害の防止

DHEATはチーム員がばらばらになることもあり、チーム力というより個々の資質・能力が問われる

担当業務の専門性を超えた公衆衛生全般についてのマネジメント能力、情報収集、知識が必要。
日頃から公衆衛生従事者として、アンテナを高く！

DMATの合言葉
CSCA-TTTを理解。
災害時の医療チームの活動方針を理解して活動できる。

ロジスティック担当の役割 ①

○災害時健康危機管理支援チーム活動要領(平成30年3月20日付)によると、ロジスティックは連絡調整、運転等、DHEATの活動を行うための支援全般を行う者。専門職がロジを兼務することを妨げない)とされている。

第1班のロジ担当の初日の業務

- 移動中: 備中保健所と連絡調整、マスコミ電話多し
- 岡山駅にてレンタカーの手続き(運転は薬剤師にお願いした)
- 岡山駅付近の宿舎チェックインと駐車場の手続き
- 備中保健所到着⇒備中県民局長、保健所長ほか幹部職員に到着報告
- 会議室使用、PC等の備品等の貸与の打ち合わせ
- 明日の日程打ち合わせ
- 報道機関からの電話連絡に対応
- 業務報告: 20:49

1日目の記録抜粋

活動項目	活動内容	状況・結果	関係者
① 備中県民局長へあいさつ	岡山県は災害の少ないところで、これまで他県への支援を行っていた。今回被災県となり、早期の災害復旧のために他からの支援は積極的に受け入れたいという方針		局長 ほか
② 毛利所長からのブリーフィング	急性期のフェイズは過ぎ、フェイズが変わってきている。真備地区の医療機関について連絡がとれないところが多く、確認が必要。明日、状況把握のために現地踏査を行ってほしい。		
③ 保健師報告会	倉敷市からの要請で県保健師3チームが、真備地区を中心にローラー巡回(自宅等)し、住民の健康課題について把握を行っている。	真備地区の住民が総社市の避難所に避難	

- ① TBSが明日の現地踏査に一部同行したいとのこと。
- ② クラドロでの夜ミーティングに所長と課長が出席するので、宗リーダーがも出席する。
18:00~19:00
- ③ 明日の予定は、9:00からクラドロの朝ミーティングに全員出席する。
 - * 備中保健所においてはDHEATの活動拠点を別室に準備してもらっており、鍵等も預かったが、地図などを含め情報収集に課題があるので、保健師ミーティングの部屋へ移動。明日以降はクラドロ事務局へ移動するかも。
 - * 備中保健所へ向かう途中もマスコミからの電話連絡が多い。明日は取材が増えそうなので、整理が必要。
 - * 宿舎が岡山市であり、移動に1時間以上かかる。

ロジスティック担当の役割 ②

第1班のロジ担当の2日目業務

- 取材調整：保健所での合同会見
- クラドロ朝の会議出席
- 医療機関現地踏査⇒マスコミが同行したので、取材時間やぶらさがりを調整
- クラドロ事務局で活動開始
保健所機能代行というイメージでDHEATが入った。
ロジ担当も「医療ニーズ、医療班活動」チームの副リーダーとして7月18日まで従事
- 2日目から業務報告は宿舎に帰ってから24:00すぎ。

ロジとしての心がまえ

第1班の使命として報告はきっちり行う

反省点：

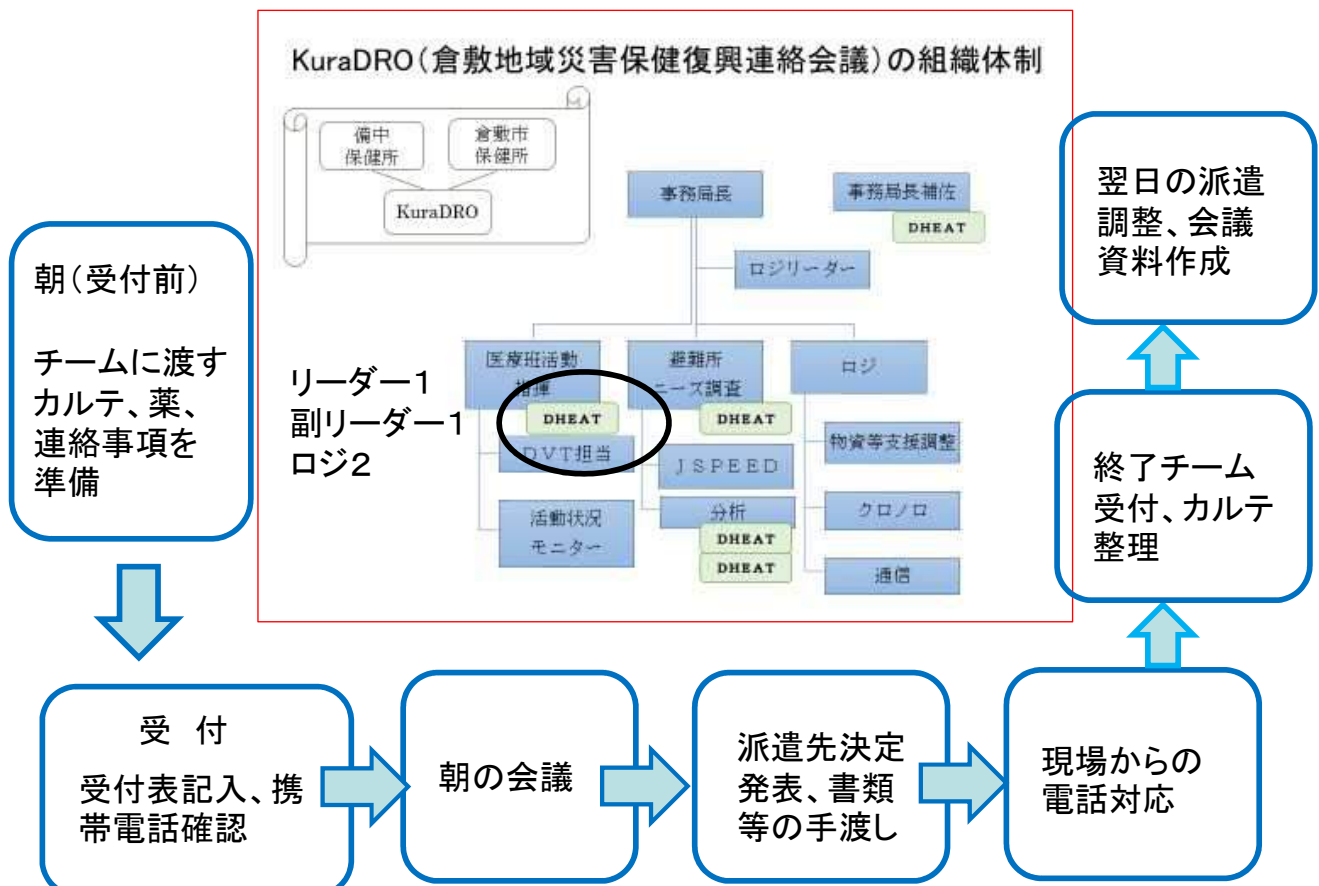
備中保健所に活動報告をすることを失念！

2日目の記録抜粋

活動項目	活動内容	状況・結果	関係者
①取材	備中保健所にて合同で記者からの取材を受ける		
②真備町医療機関調査	真備町の医療機関で可否確認ができていないところの確認を毛利所長に同行して実施。 マスコミの同行 があり、活動に支障がでたので、ぶら下がりでの取材を受けたあと取材は断った。対象医療機関の院長とはすべて連絡がついた。	被災医療機関のカルテが水没、データ消失等の課題あり（レポートのフィードバック必要）	
③クラドロ事務局	到着あいさつ、今後医療から保健分野へフェーズが変わっていく際の県・市へのシフトが円滑におこなわれるような調整をクラドロへ入りDHEATが行うこととなった。	リーダー：事務局方補佐、医療班活動へ2名、避難所ニーズへ2名	
④クラドロ会議	自主避難所 が多数あることが判明し、避難者数増加。重病はあまりないが、熱中症、DVTなど体調不良が増加しており医療チームの支援はまだ必要。 保健師の活動の情報共有が必要	避難所、昼は片付けで不在。夜間診療のニーズあり	

その他	厚生労働省より電話で活動についての問い合わせがあったので報告を行った。取材や現地踏査、クラドロ会議への参画などめまぐるしい1日であった。 22:00活動終了⇒岡山市宿舎へ、 夕食の時間、場所の検討が課題 。 活動報告 24:54 FAX送付
-----	--

医療チーム派遣調整を行って見て ①



1日の流れ (午前)

8:00	倉敷保健所到着
8:10	JRATと情報交換
8:20	避難所の表(クロノロ)作成
8:25	避難者数の情報収集
8:30	薬局と情報交換
8:30	医療支援チーム受付
9:00	クラドロ会議
9:30	医療支援チームの箇所付け発表と送り出し
10:00	巡回箇所の再検討⇒JMATロジ等へ振り分け
	チームからの電話連絡対応
	保健師からの情報:医療ニーズがある避難所対応



1日の流れ(午後)

14:00	マスコミ取材申し入れ電話対応
14:30	他メンバーの状況把握・相談対応
15:00	帰所チームから書類を受け取り状況聴取、カルテ整理
16:30	18:00からの会議資料作成の補助
17:30	帰所チームからの申し送りを伝達
18:00	クラドロ会議
18:30	避難所で在宅酸素がなくなりそうな患者の対応検討 ⇒20:50解決
20:00	クラドロ コア会議
21:00	明日の準備 (クロノロの表、配布物など)
21:30	終了

医療チーム派遣調整を行ってみて ②

○実務に携わり、平成28年度に受講した災害医療コーディネーター研修での、現場からのさまざまなニーズに対応するといった内容が実感できた。日頃からEMISのDMAT研修や訓練をチェックしておく必要があると実感した。

○当初は、紙ベースのアナログな事務処理であったので、紙書類をスキャンしてデータ化するようなアプリの活用や、支援チームとの相互連絡もSNSで情報共有ができるツールの開発に取り組んでもらいたい。

○今回DHEAT1班は、保健所業務の代行という形で、主にクラドロで活動したが、代行支援は超急性期～急性期には有効であるが、医療支援の縮小を検討する急性期以降においては、被災自治体に溶け込んで、被災地のレジリエンスを高めていくような支援に移行していくことが必要ではないかと感じた。

最後に……

◎今回、初のDHEAT派遣が実現したが、
DHEATの認知度はまだまだといったところ。
市町村の公衆衛生部局や避難所担当部局、
都道府県の医療政策の担当課との合同
訓練が必要。

